

## 最古の薬学部はどこか

薬学雑誌 1887 年度 376 頁

近年九大と千葉大では大学院に薬学府と薬学研究院という呼称を使っている。同じ教授の、同じ研究室にいる卒研生は薬学部ということだから両大学とも重なり合う3つの組織名称を使う。知らない人にはややこしいかもしれない。

その中でもっとも一般人が馴染んでいる薬学部という言葉はいつからか？ 東大は80年以上医学部製薬学科、薬学科であり薬学部ではなかった。学部として独立したのは昭和33年である。古い薬学専門学校も薬学しかないのだから薬学部という呼称はありえない。してみると薬学部という言葉は意外と新しいかもしれない——と思ったら、明治20年の薬誌に見つけた。後の地区通信となる「雑報」の欄。「本郷湯島なる済生学舎にては今般あらたに薬学部なるものを設置し、その学科を4期に分ち毎期を6ヶ月と為す」。

済生学舎は医師国家試験のための予備校だった。明治政府は、富国強兵策の一環としてドイツ人医師を招き官立医学校を建てたものの、たった1校であり、少数エリート教育によ

る官吏、研究、教育者の養成に向かってしまう。ところが一方で、それまで無免許であった我が国の医師について今後、西洋医学を学び国家試験に合格したものでなくてはならないと規定したため、庶民の病苦に応える医師の育成に大きな問題を生じた。

その結果、各地で受験のための医学予備校が設立され、とくに明治9年、長谷川泰によって設立された済生学舎は、受験希望者を多く集めた。東京にあつて無試験でいつでも誰でも入学でき、しかも医術開業試験と同じドイツ医学を学んだ東大医学部関係者が講師に来ていたからだ。この学校は明治36年に廃止されるまで全国最大規模を誇り、吉岡弥生はじめ9,000人以上の試験合格者を出した。医師全体は4万3,000人(明治25年)、うち新しい西洋医は半数程度と考えられるから、明治医学界への影響は大きかった。

済生学舎薬学部はもちろん薬舗開業試験のための受験予備校である。第一期、第二期の生徒各60名を募集した。束修金2円、月謝1円、講堂費30銭とある。この年、薬学雑誌は1冊8銭、12冊は前納90銭だった。

小林 力